

2024年度 国語入試問題

(2024年2月3日実施)

座席番号									
------	--	--	--	--	--	--	--	--	--

[注意]

- 試験監督者の指示があるまで、問題冊子や筆記用具に触れてはいけません。触れた場合は、不正行為とみなすことがあります。
- 試験中の使用が認められたもの以外は、すべてカバンに収納すること。使用用具は、黒芯の鉛筆またはシャープペンシル、消しゴム、鉛筆削り（電動式・大型のもの・ハンドル付のものは不可）とし、それ以外の使用は認めません。
- 携帯電話、スマートフォン、イヤホン、ウェアラブル端末、電子辞書、ICレコーダーなどの電子機器類は、必ず電源を切ってから、カバンに収納すること。
- 試験開始の合図により、試験を始めてください。
- 解答は、すべて「解答用紙」の所定の欄に記入すること。
- 試験終了の合図とともに直ちに筆記用具を置くこと。試験終了後に解答用紙や筆記用具に触れた場合は、不正行為とみなすことがあります。試験監督者が指示するまで、絶対に席を立ってはいけません。
- 問題冊子および解答用紙は、試験終了後にすべて回収するので、持ち帰ってはいけません。

問題Ⅰ

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

選択的接触や類同性(せいし)という、インターネットが登場する以前から持っていた人間の特徴は、インターネットによって助長される可能性がある。それまでは、「自らの意見に沿った記事だけを見た」「自分と同じ意見の人とだけつながりたい」と思っても限界があった。「中立的」なマスメディアは、勝手に自身と反対の意見を届けてくる。また、現実の生活の中で出会える、意見が同じ人の数は限られており、意見の異なる他者とながらざるをえない場面も多い。しかし、インターネット上においては、触れることのできる情報、つながることのできる他者は膨大に存在しており、自らが好む情報のみに触れ、自らが好む他者とだけつながりを持つことも可能である。

一方で、選択的接触にせよ類同性にせよ、人々が自分で意識できる現象であり、(多くの人々にとって、実際にどこまで実現できるかは別として)「反対意見にも触れよう」「意見が異なる他者ともつながろう」と努力することで、自分の周りにエコーチェンバー(まご)を作り出さないようにすることは可能ではある。

市民活動家・実業家のバリサー(まき)は、(1)このような考えに沿って、自身はリベラルな価値観を持つにもかかわらず、保守派の友人ともフェイスブックでつながっていた。しかしあるとき、自身のニュースフィードから彼らの投稿が消えていることに気づく。これは、個人の選好をA□するような技術(パーソナライゼーション)のB□というインターネット登場後のメディア環境における、大きな変化の(a)チヨウコウであった。

(2)インターネット上のサービスの多くは、民放の地上波テレビと同様に無料で利用できるが、これはサービス利用時に広告が表示されるからである。テレビ広告であれば、視聴者を性別・年齢といった何らかの属性にもとづいてセグメントと呼ばれる同質な集団に分割したうえで、商品やサービスが想定する消費者のセグメントに沿った番組に投稿される。たとえば、医薬品の広告は高齢者を対象とした番組、化粧品広告は女性を対象とした番組、自動車の広告であれば家族で視聴するような番組の途中に流されるといった形である。ある属性の人がある番組を視聴しやすいというのは、あくまで統計的な話であり、例外が存在するのは当然としても、F1層(20歳から34歳までの女性)などといった性別や年齢にもとづく区分では、価値観が多様化した現代人に対する分類としては心もとない。一方で、属性を細かく分けてセグメントを細分化することは、技術的に可能だとしても、あまりに細分化されたセグメントに対応する番組は存在しえない。

対してインターネット上では、ユーザーが行動するたびに「どの記事を読んだか」「どのような記事に「いいね!」を押したか」「どのような単語で検索を行ったか」「どのような動画を再生したか」「どのような広告をスキップしたか」といったデータが蓄積され、それを元にユーザー個人に沿った広告を提示することができる。過去の行動から見て関心を持つ可能性が高い広告に接触することがユーザーにとってメリットかどうかはわからないが、少なくとも広告主にとっては大きなメリットがある。

また、ユーザーが何らかの行動を行うたびに記録されるデータは広告の表示のみに利用されるわけ

ではない。グーグル (Google) のような検索エンジンにおいては、それまでのユーザーの行動に合わせて検索結果が変化するため、同じ検索ワードを用いたとしても、表示される結果はユーザーごとに異なる。パリスアーが気づいた通り、フェイスブックのようなSNSにおいても、つながりを持つ他者が投稿した記事がすべて表示されるわけではなく、どの記事が表示されるかはユーザーの過去の行動によって決定される。これらは、サービス提供者がユーザーの満足度を高め、少しでも長い時間利用してもらうための仕組みである。

あるいは多くのサービスで採用されるリコメンド (おすすめ) というシステムも、過去のユーザーの行動にもとづいて行われる。SNSでは、個人が選択的類同性を働かせなくとも、自身に近いユーザーを自動的におすすめしてくれる。アマゾン (Amazon) では (b) ショセキをはじめとする商品、ユーチューブやネットフリックス (Netflix) であれば動画、スポティファイ (Spotify) であれば音楽がユーザーの過去の行動にもとづいておすすめされる。

このようにユーザーの過去の行動が膨大なデータとして蓄積され、データの分析にもとづいて個人にとつて最適なサービスが提供されることを「パーソナライゼーション」と呼ぶ。パーソナライゼーションが行われたインターネット上では、誰一人として同じものを見ることにはならない。「私が見ているインターネット」と「あなたが見ているインターネット」は異なるのである。自分専用で最適化されたインターネットは、誰に対しても同じ紙面、同じ番組を提供しているマスメディアとくらべて、とても魅力的だと言えよう。

一方で、(3) パーソナライゼーションには2つの弊害が指摘されている。

1つ目は個人レベルの弊害であり、セレンディピティと呼ばれる偶然にもとづく発見の機会が失われることである。セレンディピティとはイギリスの作家ウォルポールが1754年に友人にあてた書簡の中で用いた造語であり、『セレンディップの三人の王子』という寓話(ぐわ)から取られている。この物語では、セレンディップ (スリランカ) の王子たちが旅をする過程で、意外な出来事に遭遇し、優れた洞察力によって、もともと探していなかった何かを発見する。ペニシリン(注5)の発見に代表されるように、自然科学の分野においては、もともとの研究目的とは異なる偶然による発見が繰り返されてきたが、近年ではビジネスの分野においてもセレンディピティの重要性が強調されている。しかし、パーソナライゼーションによって、個人の嗜好にもとづく情報提示がなされるならば、もともと探していた情報を得るうえでの効率はあるものの、「探していなかった何か」と偶然出会う機会は限られてしまう。

もうひとつは社会レベルの弊害である。民主主義においては、意見が異なる他者同士が議論を行うことで、人々の意見が変容し、より良い結論に達することが期待される。そうしたプロセスを通じて、少数派が多数派となる可能性が担保されていればこそ、最終的には多数決にもとづくものとしても、少数派が決定を受け入れることができるのである。意見が異なる他者同士が議論を行うためには、ある程度の情報が共有されている必要がある。しかし、パーソナライゼーションが進んだ世界においては、そもそも見ているものが異なるため、議論の前提となる情報の共有が困難となる。民主的な議論が失われることは最悪の場合、敗者の側が暴力に訴えるという悲劇に結びつくことが想定される。

(パーソナライゼーションがどこまで影響したかを検証することは困難とはいえず) 2020年のアメリカ大統領選の結果をめぐり、2021年1月、トランプ元大統領の支持者が連邦議会議事堂を(c)シユウゲキし、死者が出るという最悪の事件が起きたことは、民主主義が(d)キキに瀕してゐることをわれわれに突きつける事件であった。

パリサーは、パーソナライゼーションが進んだ世界を、フィルターバブルという語を用いて表現した。(4)フィルターバブルの中にいる人々が、お互いに交わる機会は限られる。パリサーがこの現象を(e)シンコクと考える理由は、個人が自ら選択してフィルターバブルを形作っているのではなく、グルやフェイスブックといったサービスが採用しているアルゴリズムによって、望むと望まざるとにかかわらず、フィルターバブルが形成されるためである。

このように、現代のメディア環境においては、個人の選好に合ったニッチな情報がいくらでも存在している。それは、人々が持つ情報への選択的接触傾向が実際の行動と結びつく可能性を高める。また、自分と似た他者を好む類同性は、容易に地縁、血縁、既存の社会集団を超えるインターネット、あるいはSNSによって、より純粋な形でCする。さらに、パーソナライゼーションを促進するアルゴリズムは、ユーザー本人も気づかないうちに、自身の選好に沿った情報、自身と似た他者との接触を助長する。このようなDな要因により、メディアの影響力は個人がもともと持つ選好を強化する形で働くというのが、「選好にもとづく強化」という(5)パラダイムの想定である。

このパラダイムに含まれる研究が本格化したのは2010年代以降であり、活発な研究が実施されている最中である。したがって、ニッチなニュース、類同性、パーソナライゼーションといった要因がそれぞれの程度、人々が持つ選好の強化につながっているのかは、まさに検討の途上にある。特筆すべき変化は、パーソナライゼーションに使用されている(6)膨大なデータである。研究者にとっても、インターネット利用が人々にもたらす影響を検討する重要なツールとなりうる。ウェブ上に蓄積される膨大なデータを用いて、人間の行動や社会現象を理解しようとする学問分野は、計算社会科学と呼ばれる。この分野における問題関心は従来の社会科学と重なっており、社会学者をはじめとする社会科学分野の研究者も関わっているものの、担い手の中心はコンピューターサイエンス、データサイエンスといった新たな分野の研究者たちである。社会心理学者の北村智が指摘しているように、メディア・コミュニケーション研究において計算社会科学の存在感が増している。

(稲増一憲『いまますますのマスメディアとは何か』)

(注1) 類同性……似た者同士が集まろうとする性質。

(注2) エコーチェンバー……SNSなどにおいて、価値観や嗜好の似た者たちが交流・共感し合うことにより、特定の意見や思想が強化される現象。

(注3) パリサー……イーライ・パリサー(一九八〇)。アメリカ合衆国の市民活動家。

(注4) 選択的類同性……類同性によって他者が選択されること。

(注5) ペニシリン……抗生物質の一種。

(注6) フィルターバブル……泡の中に包まれているように、孤立した情報空間で自分の好む情報や

意見にしか接しなくなる状態。

(注7) アルゴリズム……計算や処理の手順のこと。

(注8) ニッチ……隙間の意。

問1 傍線部(a)～(e)と同じ漢字を含む語を、次の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。解答番号は、

(a) 1、(b) 2、(c) 3、(d) 4、(e) 5。

(a) チョウコウ 1

- ① 体内でコウソがどう働くかを調べる。
- ② 税金がコウジョされる額を調べる。
- ③ スリリングな展開にコウフンを隠せない。
- ④ 手紙の初めにジコウのあいさつを書く。
- ⑤ 記念コウカの収集に夢中になっている。

(b) ショセキ 2

- ① セキジツの面影がまだ残っている。
- ② 大事業は一朝イツセキには完成しない。
- ③ 突然の訃報でアイセキの念に堪えない。
- ④ キセキが起きることを信じて頑張ろう。
- ⑤ 他のチームにイセキして成績が上がった。

(c) シュウゲキ 3

- ① 非難のオウシユウが続くのは不毛だ。
- ② 前任者のやり方をトウシユウする。
- ③ 刑事がシユウネンをもって犯人を追う。
- ④ 社内ケンシユウで知り合った仲だ。
- ⑤ 旅先でしみじみトリヨシユウにふける。

(d) キキ 4

- ① 新事業がようやくキドウに乗る。
- ② 敵チームのタキにわたる攻撃に苦戦する。
- ③ 来場者数を増やすためのキカクを考える。
- ④ 技術の発展にキヨする研究を続ける。
- ⑤ 地球環境の悪化がキグされている。

(e) シンコク

5

- ① ソッコクどちらに行くか選択した。
- ② 描かれた風景にコクジした場所を探す。
- ③ この土地はコクモツの栽培に適している。
- ④ 大名の格はコクダカの多寡で決まる。
- ⑤ 休日にはケイコクの新緑を楽しむ予定だ。

問2 傍線部(1)「このような考え」とはどのような「考え」か。その説明として最も適当なものを、

次の中から一つ選びなさい。解答番号は、

6

- ① 自分の持つ選択的接触や類同性を意識してさらに強化することで、できるだけ広い視野を持つようにしようとする考え。
- ② 自分の持つ選択的接触や類同性を意識的に制御することで、特定の考えに凝り固まらないようにしようという考え。
- ③ 選択的接触や類同性の意識化を避け、偏見の除去のためにインターネットを活用して視野を広く持つのがよいという考え。
- ④ 選択的接触や類同性に陥ることを意識的に避けることを目的に、自分と同じ考え方の人々との交流を拡大しようという考え。
- ⑤ インターネットによって生まれた選択的接触や類同性を意識的に抑制し、多様な意見に触れるのがよいという考え。

問3 空欄 A・B に入る言葉の組み合わせとして最も適当なものを、次の中から一つ選

びなさい。解答番号は、

7

- ① A 〓 抑制 B 〓 発展
- ② A 〓 無視 B 〓 淘汰
- ③ A 〓 促進 B 〓 抑圧
- ④ A 〓 異化 B 〓 進化
- ⑤ A 〓 反映 B 〓 普及

問4 傍線部(2)「インターネット上のサービス」について、筆者はどのように考えているか。その説明として**適当でないもの**を、次の中から一つ選びなさい。解答番号は、8。

- ① 広告が表示されるために多くのサービスが無料で利用できるという点では、インターネットのサービスの利用と民放の地上波テレビ番組の視聴は全く異なるところがない。
- ② インターネットでは、ユーザー個人のインターネット上での過去の行動のデータをもとに、その個人に特化した広告を提示することが可能であり、それは広告主のメリットとなる。
- ③ インターネットの検索においては、ユーザーの満足度を高め、利用時間を延ばすことを目的に、ユーザーごとに異なる検索結果が表示される仕組みになっている。
- ④ インターネットサービスで採用されるリコメンド（おすすめ）というシステムは、ユーザーの選択的類同性を喚起するために、ユーザーの過去の行動のデータを利用して提供されている。
- ⑤ インターネットのサービスは、ユーザー個人の過去のデータにもとづいて提供されるため、インターネット上で複数のユーザーが全く同一のサービスを受けることはない。

問5 傍線部(3)「パーソナライゼーションには2つの弊害が指摘されている」とあるが、「2つの弊害」とはどのような「弊害」か。次の文の にあてはまるように、本文中の語句を用いて四十字以内で説明しなさい。解答番号は、9。

偶然にもとづく発見の機会が失われるという個人レベルの弊害と、弊害。

問6 傍線部(4)「フィルターバブルの中にいる人々が、お互いに交わる機会は限られる」とあるが、これはどういうことか。その説明として最も**適当なもの**を、次の中から一つ選びなさい。解答番号は、10。

- ① 別々のフィルターバブルの中にいる人同士が垣根を越えて交流することは少ないということ。
- ② 同一のフィルターバブルの中にいる人同士が直接的に交流することは少ないということ。
- ③ どのフィルターバブルの人々もインターネット以外での交流の体験は乏しいということ。
- ④ 一つのフィルターバブル内ではその中の人々同士の交流が制限されているということ。
- ⑤ 複数のフィルターバブル同士では情報の交換はあっても人間的な交流はなくなるということ。

問7 空欄 C・D に入る最も適当な言葉を、次の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。

解答番号は、C 11、D 12。

C
11

- ① 具現化
- ② 抽象化
- ③ 矮小化わいしょう
- ④ 理想化
- ⑤ 極大化

D
12

- ① 根源的
- ② 可塑的
- ③ 複合的
- ④ 通時的
- ⑤ 選択的

問8 傍線部(5)「パラダイム」の本文における意味として最も適当なものを、次の中から一つ選びなさい。解答番号は、13。

- ① ある事態がさらに別の事態を誘発していく連鎖。
- ② ある時代に共通する物事の考え方の枠組み。
- ③ 社会や学問のあり方を大きく変革する新しい潮流。
- ④ ある物事が大きく変化するきっかけとなる現象。
- ⑤ 一つの社会に暮らす人々に共通して見られる傾向。

問9 傍線部(6)「膨大なデータ」とあるが、筆者はこれをどのように捉えているか。その説明として最も適当なものを、次の中から一つ選びなさい。解答番号は、14。

- ① インターネットをツールとして用いる計算社会科学が重視する目標の一つであると同時に、パーソナライゼーションによってもたらされたものでもある。
- ② インターネットによってパーソナライゼーションが実現した結果生まれたものであると同時に、計算社会科学の研究が目的としているものの一つでもある。
- ③ パーソナライゼーション実現のために使用されると同時に、従来の社会科学と裾野を異にする新しい計算社会科学で用いられるツールの一つでもある。
- ④ インターネットにおけるパーソナライゼーション実現の基盤であると同時に、個人が好む情報の提示を目標とする計算社会科学の研究対象でもある。
- ⑤ パーソナライゼーションを通じて個人が好む情報の提示を可能にするものであると同時に、計算社会科学の研究を進めるために役立つものでもある。

問10 本文の内容に合致するものを、次の中から一つ選びなさい。解答番号は、15。

- ① テレビ広告は、視聴者をセグメントに分割したうえでそのセグメントに沿った番組に流されるが、今以上にセグメントを細分化することは技術的に無理がある。
- ② セレンディピティと呼ばれる偶然にもとづく発見は、ビジネスの分野においても、自然科学の分野と同様に重要だと考えられるようになってきた。
- ③ インターネットの登場は、人間が持っている選択的接触や類同性といったものを助長することで、個人の価値観の多様化に貢献すると期待されている。
- ④ インターネットやSNSのもたらす関係性は、従来から存在した社会集団を超えて広がる可能性があったが、個人の選好の強化によってその実現がはばまれた。
- ⑤ 民主主義において少数派が多数決による決定を受け入れることができるのは、議論の過程で少数派も自分たちの意見を示して一定の満足感を得るからである。

問題Ⅱ 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

ポストモダン思想^(注1)の特質は、およそ絶対的なもの、完全なもの、規範的なもの、理想的なもの、権力的なものに対する徹底的な否定性という点にあります。それは「道徳意識」の理想主義や規範主義を批判しつつ、およそ「絶対的なもの」に対する否定性の力によって現実的なものに対抗するのです。だから、「アイロニズム」^(注2)を代表するデリダ的脱構築の思想は、ハーバーマスの真面目な「対話的理性」の考えとは折りあわず、むしろその理想主義的な性格を素朴なロマン主義^(注5)と見てこれを見下すような気味があります。

たしかに、ハーバーマスの「対話的理性」の思想を少し単純化して言えば、同じ人間としてとことん(a)セイジツに對話を重ねれば必ず合意を取り出せる、というわけですから、そうとう理想主義的、規範主義的です。そんなことはありえない、と直観的にわれわれは思うし、とくに「徹底的な否定性」を身上とするアイロニストはそうです。いわば、洒脱^(注3)の精神は自分がすでにその場所から抜け出した精神だという自覚をもつために、真面目の精神を見るとからかいたくなる。そのことにはそれなりの理由があるわけです。

しかし、にもかかわらず、(1)ハーバーマスの思想には考えるに値する重要な直観があると思います。「同じ人間どうし」だからとことん話せば必ず通じあう可能性があるはずだという前提は、一見理想主義的にすぎるように思えますが、(2)ハーバーマスの考えの中にはある根拠がひそんでいるのです。

そもそも「近代社会」の基本原理はすべての人間を「自由な個人」と見なすという点にあります。そのことが、われわれの「対話」という行為に(b)カンカできない重要性を与えているのです。なるほど、人々がとことん話し合えばどんなことでも正しい「答え」や「解決」が出てくる、と言われればわれわれは簡単には同意しません。世の中には多様な考えや意見があること、それは話し合いをしてもなかなか一致をみないことを、われわれは経験的によく知っているからです。しかし一方で、たとえば、「戦争」とか「教育」とか「政治的不正」とか「若者の犯罪」とかいった問題について、大学のゼミや公的な委員会などで議論をするような場合、われわれはそのような問題について、どれだけ話しても妥当な考えや適切な解決策など出てくるはずはないし、またそもそもその可能性などまったくないのだ、とは考えてはいません。そのような場所では、人は大なり小なり、よい仕方で考えるなら妥当な答えや妥当な考えが出てくる可能性があるはずだ、という「信憑」^(注4)をもっているのです。

これを整理すると、一方でわれわれはさまざまな考えや意見が絶対的な「一致」をみることはできないという直観、「絶対的真理の不可能性」の直観をもっています。しかし一方で、一定のことからについて何らかの「妥当性」や「正当性」があるはずだという感覚、「公共的な妥当性への一般的信憑」の感覚をもっている。これはちょっと説明しにくいけれど、たとえばどんな人も、社会に起こる具体的な問題に関して意見を求められて自分の意見を言いますが、いろんな意見があるのだから、このとき個別的な意見など何の意味もない、ただ力をもった人間の意見が通るだけだ、と考えているわけではない。自分の意見がどの程度正しいかは分からないけれど、妥当な意見や妥当な考えというものがそれなりにあるはずだ、という感覚を誰もがもっている。というのは、そのような暗黙の信憑

がなければ、われわれはそもそも意見を言うことに、いわんや議論をすることに意味があると思わな
いからです。ア、「絶対的な真理などない」という感覚は、「一般的な妥当性がどこかにある」
という感覚と決して相容れないものではない。イ、近代社会の人間の「妥当性」の感覚はその
ような「一般的妥当性への信憑」という形をとっているのがふつうだし、またそれ以外の形は絶対懐
疑主義以外にはありえない。これはキリスト教の時代の「絶対的真理」の感覚に代わるものだと言え
ます。

さて、ハーバーマスの考えに少し(c)ホジヨ線を引いてみればこうなります。世の中はさまざまな利
害関係や権力関係の(3)網の目で成り立っている。だからこの関係の中ではほとんど公正な妥当性とい
うものは期待できない。しかし議論の場面でこの利害関係や権力関係をもし適切な仕方を取り外すこ
とができるなら、つまり、そこで人が自分の主張の「妥当性」をつねに公正な感覚において説明する
必要をもち、また逆に他人の主張の「妥当性」の説明を同じ形で要求することができるなら(＝妥当
要求)、そのような条件のもとでは、いわば各人が互いに相手を「自由な個人」として承認しつつ議
論するという状態が作り出されると言える。いわばそこでは、公平で公正な言説ゲームの状態が作り
出されているのであって、力関係や利害関係が入り込む余地がない。たしかに現実社会では、さまざ
まな利害関係や権力関係を完全に取り除くことはできない。しかし、少なくともわれわれ全体にとつ
て意味をもつ問題、つまりわれわれが社会を営む以上最低限考えておくべき公共的な問題に関しては、
そのような(4)対話の条件を整えることで一定の理性的、合理的な合意を取り出しうる可能性があると
考えるべきではなからうか。またそのことには根拠があるのではなからうか。ハーバーマスの考えを
そのように受け取ることができます。

ま(注7)えに現象学の思考方法を推し進めると、人間の世界像において、共通理解の成立する領域と成立
しない領域があることが明らかになる、という話をしました。この問題も、現象学的に考えるところで
もはつきりすることがあります。すなわち(5)社会的に公共的性格をもつ問題とは何かということす
が、このことがハーバーマスの理論では行き止まりになるのです。しかし現象学の考えを適用すると、
何が公共的な性格をもつ問題かを明確に確定することができます。少し言い方を換えるのがいいと思
いますが、社会のさまざまな問題の中で、どこまでが共通理解を取り出しうる問題でどこからが取り
出しえない領域となるか、その境界線をはつきり取り出すことができる、ということです。

簡潔に言うようになります。われわれが「自由な個人」を社会を構成する基本単位とみなし、社会
を、その上に成立するフェアなルールゲームであると相互に認めるかぎり、そのようなフェアな
「社会」が存続し続けるためのルール設定の「基本原則」は、必ず共通理解として取り出すことがで
きます。たとえばわれわれが何人か集まってルールゲームをするとしましょう。その場合まず、ゲー
ムの参加者は、互いをこのゲームの対等なプレイヤーだと認め合います。ゲームのルールについても
全員が対等の権限をもつと認め合います。これはゲームですから競争原理まで否定するわけではない。
勝ったり負けたりすることについての希望を、力量や運などといった要素を取り入れてその可能性と
戯れる(6)ことのエロスがゲームの本質です。ゲームの要素としてどのような度合いで力量や運の要
素を取り入れるかも、とうぜん、成員の対等なルール決定権限に含まれます。ゲームの本質からは、

すべてが運だけで進むルーレットのようなゲームもありうるし、(d) シュウレン、努力による力量だけを競いあうようなゲームもありますが、ここでは結果が未決であり、希望と可能性が組み入れられているということが、人間にとつての、ゲームのエロスの根本的本質なのです。言いかえれば、絶対平等のゲームというものは存在しません。このようなことがルールゲームにおける基本的諸原則です。

さて、わたしの考えは、「近代社会」の本質は、各人が自分の「自由」を自覚しそのことで社会がゲーム的本質をもつことを成員が自覚しているところの社会である、ということですが。「近代社会」がこのような本質をもつ集合体であるかぎりで、社会の一定の公共的問題、つまりその基本的ルール設定の原則については、必ず基本的な共通了解が成立し、そこから派生的な共通了解の領域が現あわれることとなります。このような領域において、ハーバーマスの「対話的理性」や「妥当要求」の考えは有効性をもつのです。

繰り返すと、この社会をフェアなルールゲームだとする前提を共有するかぎりで、われわれは「対等な権限者」どうしとして一定の領域において「A」な合意」を取り出す可能性を必ずもっているわけです。言いかえれば、各人による「B」の相互承認」ということを「近代社会」の基本的公準とするならば、共通了解が成立する公共性の領域が設定できます。それより外側の問題、個人がどのような生き方、どのような価値観、どのような生活信条、どのような宗教、(e) シュミなどもつか、といった問題については、もちろん明確な共通了解は成り立ちません。むしろ、このような問題については「C」を相互に認めあわなくてはならない、ということが社会性の原則なのです。

(竹田青嗣たけだせいし『現象学は〈思考の原理〉である』 出題の都合上、一部中略した箇所がある。)

(注1) ポストモダン思想……近代的な思想から脱却することを目的とした、二十世紀半ばから後半にかけて流行した思想。

(注2) アイロニズム……自分が無知であることを利用しながら相手の無知をあばく批判的行為。

(注3) デリダ的脱構築の思想……ジャック・デリダ(一九三〇～二〇〇四)による、既存の枠組みを解体し、新たな構築を試みる思想。

(注4) ハーバーマス……ドイツの哲学者(一九二九～)。

(注5) ロマン主義……一八世紀後半から一九世紀前半にかけて、ヨーロッパで展開された思想。

(注6) 洒脱……さっぱりしていること。洗練されていること。

(注7) まえに……本文より前を指す。

問1 傍線部(a)～(e)と同じ漢字を含む語を、次の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。解答番号は、

(a) 16、(b) 17、(c) 18、(d) 19、(e) 20。

(a) セイジツ

16

- ① スタートの合図でイツセイに走りだした。
- ② この川のセイリュウにはアユがいる。
- ③ 私は小さいころセイカタイに入っていた。
- ④ 明日の開会式で選手センセイをする。
- ⑤ 昨日の失敗に対してセイイをこめて謝罪する。

(b) カンカ

17

- ① 素行の悪い兄は父にカンドウされた。
- ② カンマンな動きでは敵にやられてしまう。
- ③ 彼女は娘を一晚中カンビヨウし続けた。
- ④ 彼が決めたゴールはアッカんだった。
- ⑤ 少年野球のカントクに任命される。

(c) ホジヨ

18

- ① 赤字をホテンするための対策を講じる。
- ② コンクリートで道をホソウする。
- ③ 稲のホサキが垂れ始める時期になる。
- ④ ホニユウビンを清潔に保管する。
- ⑤ ようやく犯人のタイホに踏み切る。

(d) シュウレン

19

- ① ユウシュウな人材が集まる。
- ② 壊れた屋根をシュウゼンする。
- ③ シュウトクブツを交番に届ける。
- ④ 労働に見合ったハウシュウを受け取る。
- ⑤ 彼の要望はイツシュウされた。

(e) シュミ

20

- ① 人をもてなすためにシュコウを凝らした。
- ② お菓子をトクシュウな製法でつくる。
- ③ 胃にシュヨウがあるかもしれないと言われた。
- ④ インシュ運転による交通事故が多発している。
- ⑤ 大好きなシュイロのコートを着て出かける。

問2 傍線部(1)「ハーバーマスの思想」とあるが、本文の説明のなかでこれに関連しないものを、次の中から一つ選びなさい。解答番号は、21。

- ① 理想主義
- ② 対話的理性
- ③ ロマン主義
- ④ 徹底的な否定性
- ⑤ 真面目の精神

問3 傍線部(2)「ハーバーマスの考えの中にはある根拠がひそんでいる」とあるが、筆者が「ハーバーマスの考えの中」にあると思っている「根拠」とはどのようなものか。その説明として最も適当なものを、次の中から一つ選びなさい。解答番号は、22。

- ① わたしたちは、どんなことでも話せば必ず通じあう可能性があるということを前提として、いつも「対話」をしているということ。
- ② わたしたちは、相手を「自由な個人」と見なしているから、「対話」のときに共通の見解に立つことができないと考えていること。
- ③ わたしたちは、世の中には多様な考えや意見があり、話し合いをしてもなかなか一致をみないということをよく知っているということ。
- ④ わたしたちは、公共的な問題についての話し合いでは、妥当な答えや正当な考えが出てくる可能性があると考えているということ。
- ⑤ わたしたちは、個別的な意見など何の意味もなく、ただ力をもった人間の意見が通るだけだと日ごろから考えているということ。

問4 空欄 ア・イ に入る言葉の組み合わせとして最も適当なものを、次の中から一つ選びなさい。解答番号は、23。

- ① アⅡすなわち イⅡところで
- ② アⅡつまり イⅡむしろ
- ③ アⅡいわば イⅡところが
- ④ アⅡしかし イⅡかえって
- ⑤ アⅡまた イⅡどちらかというと

問5 傍線部(3)「網の目」の本文における意味として最も適当なものを、次の中から一つ選びなさい。
解答番号は、。

- ① 隙間があること。
- ② 模様になっっていること。
- ③ 張り巡らされていること。
- ④ 入り込んでいること。
- ⑤ 大雑把であること。

問6 傍線部(4)「対話の条件」とあるが、それはどのような状態にあることか。次の文のにあてはまるように、本文中の「妥当性」という言葉を用いて四十字以内で説明しなさい。解答番号は、。

状態にあること。

問7 傍線部(5)「社会的に公共的性格をもつ問題」とあるが、どのような「問題」のことか。その説明として最も適当なものを、次の中から一つ選びなさい。解答番号は、。

- ① 世の中にある共通了解の成立しない領域に関わる問題。
- ② 各人が「自由な個人」であるという見解に関わる問題。
- ③ 社会をゲームとした場合の各人の力量や運などに関わる問題。
- ④ フェアな「社会」存続のためのルール設定に関わる問題。
- ⑤ 個々人の生き方や価値観、生活信条などに関わる問題。

問8 空欄 に入る最も適当な言葉を、次の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。
解答番号は、A 、B 、C 。

- | | | |
|---------------------------------|---------------------------------|---------------------------------|
| C | B | A |
| <input type="text" value="29"/> | <input type="text" value="28"/> | <input type="text" value="27"/> |
| ① 多様性 | ① 利害 | ① 規範的 |
| ② 共通性 | ② 自由 | ② 絶対的 |
| ③ 一貫性 | ③ 精神 | ③ 政治的 |
| ④ 感受性 | ④ ゲーム上 | ④ 一般的 |
| ⑤ 公共性 | ⑤ 価値観 | ⑤ 理性的 |

問9 本文の内容に合致しないものを、次の中から一つ選びなさい。解答番号は、30。

- ① デリダ的脱構築の思想やポストモダン思想は、ハーバーマスの「対話的理性」の考えとは折りあわないものである。
- ② わたしたちはどんな人でも、「絶対的真理の不可能性」の直観と、「公共的な妥当性への一般的信憑」の感覚をもっている。
- ③ わたしたちが意見を言うことに意味があると思うのは、自分の意見が妥当な意見や正当な考えとして正しいという感覚があるからである。
- ④ 何が公共的性格をもつ問題であるかということは、ハーバーマスの理論でなく、現象学の理論で説明することができる。
- ⑤ 社会の一定の公共的問題については基本的な共通理解が成立するが、それより外側の問題については明確な共通理解は成り立たない。

国語 (20240203)

解答一覽

大問	小問	解答番号	正解
I	問 1	1	④
		2	⑤
		3	②
		4	⑤
		5	①
	問 2	6	②
	問 3	7	⑤
	問 4	8	④
	問 5	9	記述問題
	問 6	10	①
	問 7	11	①
		12	③
	問 8	13	②
	問 9	14	⑤
問 10	15	②	
II	問 1	16	⑤
		17	③
		18	①
		19	②
		20	①
	問 2	21	④
	問 3	22	④
	問 4	23	②
	問 5	24	③
	問 6	25	記述問題
	問 7	26	④
	問 8	27	⑤
		28	②
		29	①
問 9	30	③	